令和５年度　第１回北海道立文学館運営評価委員会

開催日時　令和５年10月31日(火)14時00分～15時30分
開催場所　北海道立文学館　地階講堂

Ⅰ　次第

１　主催者挨拶
２　議題
(1)　令和５年度事業の実施状況について
(2)　令和５年度道立文学館利用者満足度調査について

Ⅱ　出席委員

(敬称略；アイウエオ順)

氏　　名	所　　属　　等
東谷　一彦	【学識経験者】 札幌国際大学短期大学部教授
大澤　隆義	【地域関係者】 中島公園管理事務所長(中島公園地域コミュニティ推進協議会　事務局長)
辰巳奈優美	【利用者】 公益財団法人北海道文学館賛助会員(北海道俳句協会　常任委員)
渡辺　俊之	【社会教育関係者】 公益財団法人北海道生涯学習協会　専務理事
渡部　浩士	【学校教育関係者】 学校法人聖公会北海道学園　認定こども園聖ミカエル幼稚園教頭

Ⅲ　委員からの意見等

委員)

今回の赤羽末吉展は私も是非見たいと思い、職場にも声を掛けたところ是非見たいと盛り上がり、何人かはこちらに伺ったことと思います。展覧会のテーマの設定が大変関心を集め、いいところを捉えており、いつも感心しております。文学館は難しく考えると敷居が高いと感じるかも知れないが、だれでも興味があるものはあって、興味がそそられるものがあると、必ず来館者があると思います。ファミリー文学館のネコも目標を上回る来館があったということですが、これはネコ好きの方はいるもので文学の中でどんな登場の仕方をしているのかととても興味がそそられると思います。今後もいいところに目をつけてテーマを設けていただけると、私どももより集まりやすいと思います。

先ほど特別展を拝観させていただき、その中での解説で、いままで英語の説明文はなかったが、来館者からの要望があり、説明をつけたと話があり、なるほどなあって思いました。それ相応のご苦労があったことと思います。新たなことをするのは大変でしょうが、これだけ自慢できる展示が文学館にあって、国外の方々、特に今はインバウンドで外国人が来日しているので、日本の文学はこれだけすてきなんだと、紹介できる場面があると思いました。

可能であれば、これからも英字の掲示とか、海外の方にも分かるような展示が増えると、なお素晴らしいと思いました。

事務局）

昨年まではコロナ禍で海外の方はあまりいらっしゃらなかったのですが、今年になって増えてきまして、始めの頃は、韓国の方とか台湾の方がいらっしゃり、ここ最近は中国からも結構来ているようです。台湾から一人でいらっしゃった女性に、副館長が英語で対応したのですが、その方は石川啄木をメインに見ていて、資料がどこにあるのか教えて欲しいという話で、常設展のリーフレットは中国語で2種類（簡体字と繁体字）あり、繁体字の方を見ていただいたのですが、(釧路管内)阿寒にある歌碑もすでに見てきた、札幌はどこにあるのかと質問があり、大通公園にあり、そこの写真をご覧になって、そこへはどうやって行けばいいのか聞かれるなどしたところです。海外の方にも石川啄木に興味を持っていただいています。私どもも海外の方、全てに対応しきれている状況ではありませんが、今後も努力していかなければならないと思います。

常設展示については英語、中国語、韓国語のリーフレットを用意し、特別展示はあいさつパネルには英文があるのですが、その先の展示は、日本語の「世界」という状況で、数年前のグーグル翻訳では適切な英訳が得られなかったのですが、最近の翻訳はネイティブの方に見てもらっても、全然問題なく分かる自然な英文になっていますので、翻訳しやすい日本語で説明文をつくると、分かりやすい英文に翻訳されると分かったところです。文学作品を英訳するのは別の難しさがありますが、解説文を英訳するにはグーグル翻訳が十分活用できる感触を得ましたので、今後も努力して参りたいと思います。

特別展をご覧になっている外国人の方がスマホで写真を撮っているように見えることがあるのですが、展示パネルの解説文の箇所をスマホで撮影して、翻訳ソフトを利用しながら観覧されている方もいらっしゃいます。

委員）

個人的な感想になりますが、毎月、句会でこちらの講堂を利用させていただいています。少し早く来て特別展を見たいと思い、句会に参加の方にも特別展を見てくださいと話しているので、時間があれば見ていただいています。今日、副館長に詳しく解説していただいて、先日ひとりでみたときよりも味わうことが出来ました。絵の美しさと赤羽末吉の経歴を見ますと、幼いお子様を3人も亡くされている、50代になって絵本を作り始めたと聞きまして、子どもへの想いというか、子どもにも楽しめるものを作りたいという想いがあるのかなあと感じました。

雪の表現についても、絵の表現などに目をつけられて、展示されて、赤羽末吉ご本人が撮った写真もありましたが、これらがいっしょに展示されているのは良かったと思います。その写真が下の方にあって少し見ずらかったのですが、余り大きくすると絵の方が目立たなくなってしまうのでやむを得ないですね。

今日は地下鉄の中島公園駅の方で焼き芋のイベントがあり、お天気も良かったことからでしょうか、来館者が多かったと思うのですが、6月の「さっぽろまつり」の時などはこちら文学館の方へ入れないようになっていましたね。敷地内で飲食されたりなどしたら困るということでしょうか。

事務局）
　さっぽろまつりでは中島公園の中の通路に露店が並んでおり、今年も去年も中島公園側から入ってくる通路からは直接入って来られないようにしています。
　2019(令和元)年頃までは、トイレのみの利用で汚れがひどいという状況があったようですが、その後は特にコロナ禍でもあったのでトイレのみの利用は控えていただいておりました。

委員）
　今日のように中島公園内でイベントがありますと、文学館から離れていても、公園の中を紅葉を見ながら、文学館の存在に気づいて来館される方も多いのかと思います。

事務局）
　先ほどファミリー文学館の話がありましたが、その開催時は丁度桜の見頃で、中島公園にいらっしゃる方が多く、その流れで文学館に来館される方も結構多かったようです。特に観覧料が無料だったこともあり、また天候も良かったので来館される方が多かったようです。その時は文学館が初めてという方も多くいらっしゃいました。

委員）
　今回のようなイベントがあることは事前に連絡などがあるのでしょうか。
　イベントとのコラボみたいなのがあったらいいと思います。

事務局）
　今回は、連絡は特になかったと思います。
　今年は札幌市の方で、中島公園の魅力化に向けた検討委員会を設け、公園の更なる活性化を図るための検討がされていくようで、その中で文学館だけでなくKitara(キタラ)や豊平館などが一体となって魅力ある公園に出来ないかという検討もされているようです。当館からも意見をあげているところです。また、公園の中での連携ということでは、昨年ですが「ぶらり文学散歩」でパークホテルを利用させていただいたり、今年は近隣のホテルとの連携として、プレミアホテル中島公園や札幌パークホテル、ホテルライフォート札幌にも声かけして、ホテルの広告チラシを置く代わりに、当館のチラシも置かせていただく、更にはホテルの利用客が観覧される場合は団体割引料金(概ね2割引)を適用するなどの取組を進めているところです。このように近隣との連携も少しずつ進めています。
　最近は韓国の文化団体との交流ということで、10月18日に韓国の文学館協会の方々が20数名視察に訪れ、当館の概要などについて副館長による説明を聞いていただき、その後の質疑応答では、工藤館長と平原理事長が対応しましたが、結構熱心に質問されておりました。最後に韓国文学館協会の会長から記念品の贈呈もあり、ちょっとした国際交流になったことと思います。

委員）
　今、いろいろ事業について説明していただいて、これだけ、多岐にわたる事業をされていることに頭が下がる思いです。

特別展はいろいろなことを考えて企画されていると思いますが、決め方の基準のようなものがあるのでしょうか。

事務局）
財団理事からの聞き取りや、またいろいろな企画会社からオファーを受け、いろいろ情報が集まって来たところで、当館にふさわしい企画を精選して、財団の役員で構成する企画検討委員会で検討しながら決定していく流れになります。来年度については50本ほど企画案があがっており、更に企画会社、また日本近代文学館では全国の文学館を巡回できる企画セットを持っていますので、それらの情報も合わせると70～80本以上になってきます。

委員）
かなり材料がたくさんある中から企画を絞っていくわけですね。あと予算面のこともあるでしょうね。
今年、小津安二郎展がありましたが、映画も文学の範疇にあるという考え方なのでしょうか。

事務局）
映画を取り上げたのは初めてになります。これまでは演劇や人形劇があり、漫画も候補に上がってきており、文字媒体が係わってくるものは広く文学として捉えるようと考えています。

委員）
私も小津安二郎展を拝見したのですが、やっぱりいいですね。黒澤明などとは違った良さがあると感じることができました。

事務局）
映画は難しさもあるのですが、映画の場合、上映が一番望まれるので、上映が出来ないときはどういう風にするのか頭を悩ますところも多いです。

委員）
是非、また新しい企画を期待しております。

事務局）
小津安二郎展ですが、今年は生誕120年を迎え、時期もタイムリーで、今年、新たな発見があったとテレビで報道されたりもしたところです。
今回は映像を中心とした展示でしたけれども、何らかのきっかけで少しでも文学館に来ていただければ、あるいは本を読むきっかけとなっていただければと思っています。
事業展開も昨年度まではコロナ禍でかなり制約を受けましたが、今年は人数制限もかなり緩和して実施してきており、事業の本数もコロナ禍前と同じくらいになっています。今年度計画した事業で、これまでに中止した事業は今のところございません。
本日いただいたご意見を生かして、今後の事業を展開して参りたいと思いますので今後ともよろしくお願いいたします。